

今号の作業

バックミラー(右)を取り付ける

今号では、ハンドルバーの右グリップ基部に「バックミラー(右)」を取り付ける。工程は78号と同じだが、左右のバックミラーを間違えることがないように、取り付け基部の形状が異なる仕様となっている。なお、ミラー部分とステーとの接合部は細く、破損しやすい。取り付け角度を調整する際には、十分に注意しよう。

今号のパーツ

①バックミラー(右)×1

①

用意するもの

- ・メインフレーム(78号で組み立てたもの)
- ・マスキングテープ

使用する道具

- ・特になし

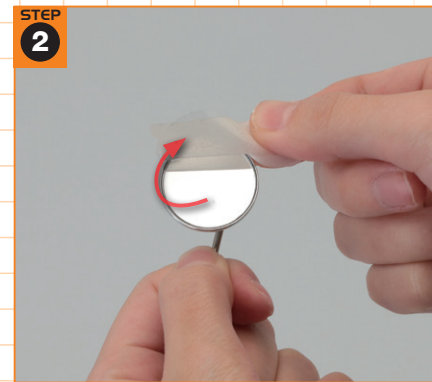
※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様異なる場合があります。

STEP
1



①バックミラー(右)を用意し、ミラー面に短く切ったマスキングテープを貼り付ける。これは78号でバックミラー(左)に施した作業同様、ミラー面保護フィルムをはがすための準備だ。

STEP
2



端からめくり上げるような感じでマスキングテープをはがすと、保護フィルムも一緒にはがすことができる。うまくはがれなかったときはマスキングテープを貼り直し、同じ手順で繰り返そう。

STEP
3



78号で組み立てたメインフレームを用意し、ハンドルバーの右グリップ基部に設けられた取り付け穴に、バックミラー(右)の取り付けピンをセットする。取り付けピンが「ギザギザ」に見えるのは、外れにくくするための加工だ。穴の形状とピンの形状をしっかりと合わせ、差し込む向きを確認しよう。

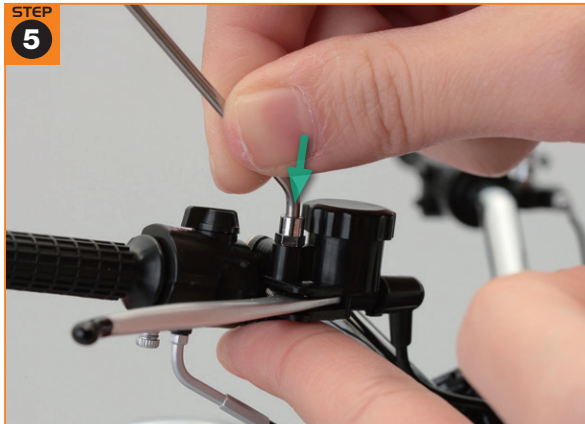
STEP
4



破損しやすいので無理な力を加えないよう注意

右グリップが外れないようしっかりと保持し、③でセットしたピンをそのまま真っすぐに差し込む。ミラー部分とステーの接合部は細く、破損しやすいので、ミラー部分ではなくステー部分を持って差し込むこと。

STEP
5



グリップ基部を下から支え、ミラーの取り付けピンを奥まで押し込む。

今号の完成



これで今号の作業は完了だ。バックミラー(右)の取り付けピンに溝加工が施されているのは、滑りやすいメッキパーツに取り付けるためだ。78号の作業に比べ、やや差し込みにくいかもしれないが、少しずつ真つすくに差し込もう。

前後ホイールのゆがみを修正しよう

モデルの前後ホイールは、組み立て済みの状態で提供しているが、そのパーツ点数は合計で100点を超えている。これはスポークを1本ずつ取り付けているためだ。しかし、パーツ点数が多くなれば、それだけ取り付け部分の精度維持も難しくなり、結果としてゆがみが生じてしまう。そのため、定期的にモデルをチェックし、ホイールのゆがみを修正しよう。

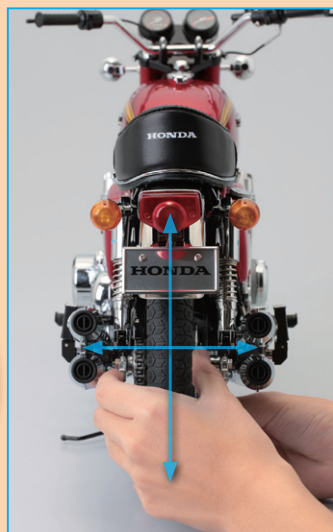


モデルを真正面から見て、フロントタイヤが中心にあるか、タイヤが垂直の状態になっているか確認する。ホイールのゆがみは一方の側にだけ起こるものではない。少しずつタイヤを回転させて、全体の状態を把握しよう。もしも1カ所にゆがみがあれば、必ずホイールシャフトを中点とした点対称の位置に“逆方向のゆがみ”が生じている。



ホイールのゆがみは、ホイールシャフトを中心とした反対側にも逆方向のゆがみが起こっている

ホイールのゆがみ具合を把握したら、ホイールシャフトを支点にして、“ゆがんでいる方向の反対側”へ押す。右側に出っ張っていた場合は、左側へ押す(もしくは引く)。この作業を繰り返しながら、少しずつゆがみを修正していく。



リアホイールの修正も基本的にはフロントホイールと同じだ。ただし、左右のマフラーやスプロケットが妨げになるため、押す作業自体はやや面倒になる。マフラーなどを避けながら、少しずつ作業を繰り返そう。



リヤブレーキロッドに注意

リアホイールの修正作業を右側で行う場合は、マフラーの内側に隠れている「リヤブレーキロッド」を破損しないよう、くれぐれも注意すること。